

新聞そのものや記事などを比べる面白さは、紙面構成など同じだと思って手にした新聞に違いを見つけることです。同じ会社の新聞なのに、東京と大阪ではまったくといってよいほど異なっていることがあります。

私はかなり前から、地方へ行ったときに、地元紙を購入することにはしていましたが、10年ほど前、博多で何気なく手にした朝日新聞の題字の図柄が東京と違うことに気づき、驚きました。それ以来、購読している全国紙も地方で入手することにしています。

朝日新聞では、社説や天声人語などは全国共通ですが、たとえば同じ記事が第1面トップで、その本文が一字一句同じであったとしても、見出しや割り付けはまったく違っていることがあります。社会面に「青鉛筆」という各本社で内容の異なるコラムがありました。いまは東京本社版と名古屋本社版にはありません。

朝日新聞は4本社1支社制を敷いており、東京本社のほかに、大阪、北九州（西部）、名古屋に本社、札幌（北海道）に支社があります。各本社が紙面構成をしたり、独自の企画記事を作ったりしますので、見た目や中身が異なっていて当然です。同じ会社の新聞の比較では、このような本社の違いのほかに、版の違い、曜日による紙面構成の違い、曜日による広告の業種の違いなどがあります。そこには新聞社の工夫や努力のあとがみられ、楽しいです。

(鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問)